



アバン仙台 Jr. Youth News 2018年 4月号

第42回

平成29年度 ジュニアユース壮行会



H29年度 ジュニアユース卒業生たちの壮行会が行われました。当日はあいにくの雪降りとなりましたが、最後までよい雰囲気で行われました。

そのきっかけは、右の写真でも紹介していますが、卒業前にジュニアユース全員で出場した北中山コミュニティグラウンド杯に出場し、昨年度惜敗しているチームに勝利し優勝できたことも大きいです。

さて、壮行試合はというと、2年生キャプテンの栗原君のロングシュートが決まり、善戦した時間もありましたが、そこはさすが3年生たちです。東北大会出場の実力をを見せてくれました。選手たちがバランスよく動きながら連携し、プレーの判断もそれぞれの選手が持っているからこそ、テンポよくボールがゴールまで向かい得点していました。

その中で特徴的だったのは、一年通してチャレンジしてきた『どのポジションの選手たちもゴール向かえること、ゴールを決められることです』。高校サッカーでも自分の特徴を失わずに高校選手権などで活躍できるよう頑張ってもらいたいです。

北中山コミュニティグラウンド杯に出場 3-1でACアズーリに勝利し優勝



『1部残留』をかけたリーグ戦ついに開幕

みなさん、いよいよ新年度の戦いが始まります。4月から「高円宮杯 宮城県リーグ (MJリーグ) U-15」、そして「日本クラブユースサッカー選手権 (U15) 宮城県大会」に新ジュニアユースが挑みます。

そのリーグ戦では、ダブルで個人によって勝負するだけでなく、パスで連携しながら「中央突破」と「サイド攻撃」で戦います。ですが、身体の強さという点では対抗できない場面も正直あるので、「切り替えの早さ」と「タフに」走り戦いぬきます。

そしてMJ1部リーグは8チームで残留を争います。どのチームも強豪で1部リーグを長きに亘り戦いぬいてきた実力・実績、戦い方を知る素晴らしいチームばかりです。その中で2部降格となるのは1チーム、この激しい争いの中で残留をかけて戦います。

一方でアバンツァーレはまだまだ1部で戦った経験は浅く、特に2部リーグから昇格したチーム、2部を戦い合ったチームそれぞれの代表として、1戦1戦を「挑戦者」という気持ちで戦います。ですが、ただ謙虚な気持ちだけでなく、なによりまず「勝つ」ことに全力でプレーします。

そして、相手が強いチームだと臆せずチャレンジします。けっして力を抑えず、自分たちの今の力を出してもらいたいです。どうかアバンツァーレの皆さん、そしてかわら版をご覧になったみなさん、ぜひ会場に足を運んでいただき、応援を宜しくお願いします。

2018年度 リーグ戦 4月日程

【MJリーグ 日程】

4月 7日 (土) VS 仙台FC	会場:めぐみ野サッカー場 Aコート	13時10分
4月14日 (土) VS コバルトレ女川	会場:めぐみ野サッカー場 Cコート	11時30分
4月21日 (土) VS 名取一中	会場:めぐみ野サッカー場 Cコート	13時
4月28日 (土) VS DUOパーク	会場:松島フットボールセンター第二ピッチ	14時30分

【クラブユース選手権 日程】

4月22日 (日) VS 仙台FC	会場:七ヶ浜サッカースタジアム	11時30分
4月29日 (日) VS 青葉FC	会場:七ヶ浜サッカースタジアム	9時30分

J-ヴィレッジ 7月営業再開

アバンツァーレが震災前まで合宿をしていたナショナルトレーニングセンター「J-ヴィレッジ」が7年余りの歳月を経て今年7月28日に営業を再開することが決まりました。

この施設はかつてサッカー日本代表も合宿をしていた場所でもあり、多くのサッカー少年や大人まで様々な世代、スポーツ団体が施設を利用していました。

そして私も初めて帯同した9年前のアバン合宿では、小・中学生が合同合宿をしていました。更に6年生とジュニアユースが交流戦をすることや、来場していた大人チームにお願いしジュニアユースや6年生が練習試合をしてもらうなど、たくさんの交流もできる場所でもありました。

もちろん、設備だけを見てもナショナルトレーニングセンターというだけあって素晴らしい設備が整い充実しています。コーチ的には食堂がお勧めです。食事のバランス、ボリュームも魅力的でした。

更に海岸近隣にあるので景観は素敵ですし、ないより凄いの施設面積が東京ドーム10個分と圧巻の広さです。

このJ-ヴィレッジは、5000人収容可能なスタジアムを含めた天然芝ピッチ8面と人工芝ピッチ2面に加えて、再開に向け新たに全天候型の練習場の整備と新宿泊棟の建設にも力を入れてきたそうです。

また、昨年度の東北大会で対戦したご縁から、J-ヴィレッジSCと2月に合宿でお世話になり営業再開と共に今後の交流も楽しみです。

そしてJ-ヴィレッジSCとの合宿がきっかけでJ-ヴィレッジ営業再開までの活動を知る貴重な機会となりました。皆さんもぜひ、新たなスタートをきる施設の情報を知る機会としていただければと思います。アバンツァーレHPでも紹介しております。ぜひ、ご覧ください。

選手たちの活動について

ジュニアユース8期生たちが卒業を迎えたわけですが、現在アバンツァーレで活動している皆さんは、具体的にじゃなくてもサッカーの進路についてどう考えていますか？大まかにこの高校に行きたい、大学までサッカーを続けたい、またはプロになりたい、と考えている人もいることと思います。

そこで今回、卒業した選手たちの進路についてご紹介したいと思います。何かの参考にしてもらえればと思います。その進路先での選手たちの活躍にもぜひ注目してみてください。

ジュニアユース8期生 高校進学先

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ● 聖和学園高等学校(私立) 3名 | ● 東北高等学校(私立) 2名 |
| ● 城南高等学校(私立) 2名 | ● 仙台西高等学校(公立) 2名 |
| ● 仙台第三高等学校(公立) 2名 | ● 宮城県工業高等学校(公立) 2名 |
| ● 仙台南高等学校(公立) 1名 | ● 名取北高等学校(公立) 1名 |
| ● 仙台東高等学校(公立) 1名 | ● 仙台商業高等学校(公立) 1名 |
| ● 茨城朝鮮初中高級学校 1名 | |
| ● 仙台高等専門学校(国立) 1名 | |
| ● 東北学院榴ヶ岡高等学校(私立) 1名 | |

各大会で対戦する姿を
楽しみにしています。

取り組みが結果に表れる

皆さんは、スポーツ選手が、試合後のインタビューで「運があった」「運がなかった」といった、運不運で勝ち負けの要因を語る場合があります。でも、「運があった」「運がなかった」と簡単に片付けますが、運不運は何が要因で生まれるか考えたことはありますか？

よく「運がある」という人が、特別なことをやっているのかということ、決してそんなことはないと思います。「運がある」と言われる人ほど、実は当たり前な事をきちんとやっている、ということに気がつきました。当たり前な事をきちんとやるのが、運を呼び込み、勝利を呼び込む。そのことを、元サッカー日本代表監督の岡田武史さんは、「勝負の神様は細部に宿る」という言葉で表現されています。

どのような意味かということ、ランニングをする場合、ズルをしてコーンの内側を回る選手がいるとする。たった数メートルの差だが、これを許容するようなチームは決して強いチームになれないというわけです。

サッカーにおいてはそのちょっとした気の緩み、ちょっとしたサボりが勝負の行方を左右することがあると、アバンでは考えています。当たり前なことを当たり前のようにやれないチームは、絶対に最後のところでポロが出るのです。

では、アバンの中で当たり前に行っていることは何か。

例えば、「あいさつ」「整理整頓」「自分から進んでやる」などがあげられます。

【あいさつ】

礼を正すという言葉があります。時と場をよく考え、相手を思い素敵なあいさつが出来ること。

これは、大人も子供も関係なく、そして相手チームにまであいさつが出来る選手(=大人)であること。

チーム内でもあいさつすることがよい雰囲気づくりにもなります。

【整理整頓】

整理することは、判断力と決断力を高め、整頓することは全体を観る力を養うことができると信じています。

そのため、平日練習やチーム練習、そして自分の部屋、バス車内などあらゆる場所、場面で取り組みます。

(※右の写真は広島県立安芸南高校の畑喜美夫氏 FB記事を引用)



【自分から進んでやる】

失敗を恐れずにタフにチャレンジすること。

過去の失敗経験からどうしても行動を抑えてしまうのではなく、自ら考え、自ら判断し、自ら行動する。

練習でも試合でも自分の成長を自分が信じてチャレンジしてみましょう。

このような取り組みの差が「運不運」レベルの差になって、勝敗を分けるのだと考えています。どんな仕事でも同じですが、当たり前な事をきちんとやることのできるのか。それが、大きな差となって出てくるのだと思います。

大きな差が出る時は一瞬ですが、その差は普段の行いの積み重ねで生まれると思うと、普段からの取り組みの重要性を感じる事が出来ますね！

テクニカルレポート

今回は、『パスの迎え方』についてです。3月号で「パスを受ける位置」を紹介しましたが、パスを受ける位置や状況によって足元に対するボールの迎え方や、場合によってはボールをコントロールする身体の向きや使う足も工夫します。

まず、下の写真。前を向くために使われるインサイドを使ったコントロールです。この方法により相手ゴール方向を向きやすく、自分から見て横や斜め(前後)方向からくるボールを狙ってくる相手に対して速い位置に置くこともできます。

例えば、前を向きながらボールを足元に迎えることによって、ボールを止めるというより前方のスペースを狙って1タッチでパスするようにスタートすることも、丁寧に足元にコントロールしてから相手の状況やスペースを観てから2タッチ目でチャレンジすることもできます。



「受ける前の準備」

元の位置

ボール置く位置

写真Aの場面、右足にボールを迎えるところです。この動作のポイントはボールが右足に向かってはいるわけですが、右足にボールを迎える自分自身もボールから離れないように軸足を少し後ろに引きながら進行方向に向きを変えることです(※Bの写真はボールを止めた直後)。

写真Cは前述したスペースを狙ってチャレンジする場面で使われるコントロールの方法です。

ゴールを狙ったプレーとして前方へのチャレンジができる場面であれば、チャレンジしていきましょう。



次はコーチがサイドの1対1などで使っているパスの受け方です。

これは①の写真のようにゴールに向かって内側に身体の向きがつけられていて、遠い右足でスタートしています。斜め前方や横からパスがきた時に右足のインサイドの面をしっかりつくり、進行方向に向かって斜め内側にボールを優しくコントロールしています。

この向きからスタートすることで写真Dの縦方向への突破と写真Eのようにコートの内側への突破を狙えるという2つの選択肢を持つことができます。

ただし、どちらも相手の距離とタイミングがギリギリすぎると相手の足に当ててしまうので注意しましょう。



ボール置く位置